

15. 1870.T次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡
グリッド	M88-21次
所在地	東京都府中市本町1-15-7
現地調査期間	令和2年11月25日～令和2年11月26日
面積	16.0㎡ 遺物出土量 なし
検出遺構	土坑1基(M88-SK179)・ピット1基〔古代〕
調査担当者	野田憲一郎
調査従事者	伊藤和人・伊藤朱・磯部ゆい(合)Talo

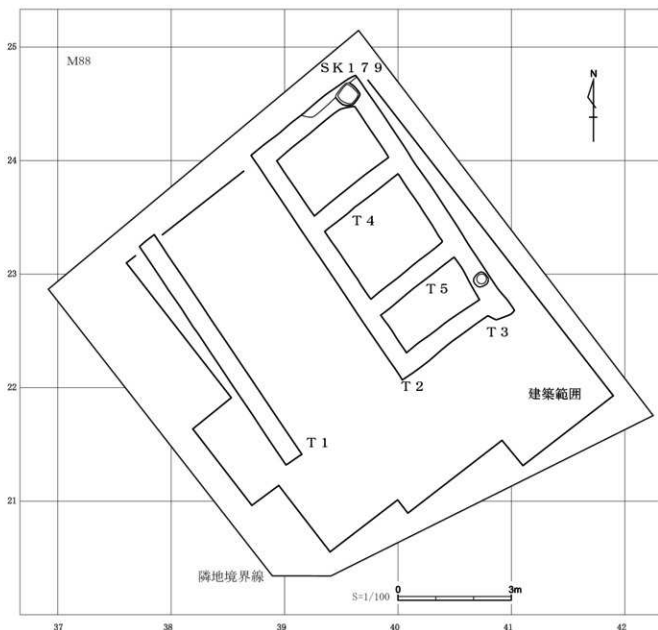
1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡に所在し、府中街道を挟んで西には国史跡武蔵国府跡(国司館地区)が隣接し、北東には同じく国史跡武蔵国府跡(国衙地区)がある。

調査区周辺は、西から続く立川段丘の南端にあたる府中崖線が大きく湾曲し、舌状に張り出した台地上とそこから



第1870.T-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1870.T-2図 調査範囲図(1/100)

沖積低地に向かう府中崖線上に跨って立地している。

2 遺構と遺物

土坑1基とピット1基を検出した。

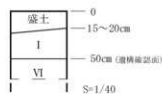
M 88 - S K 179 古代の土坑である。北側は攪乱されている。平面形は方形で、断面形は逆台形状を呈する。覆土の観察から、古代の土坑と考えられる。

ピット 古代のピットである。平面形は円形を呈する。底面は平坦で、ほぼ直角に立ち上がる。覆土は3層に細分され、最下層はしまりが強い。他にピットは検出されず、建物を構成する遺構ではない。

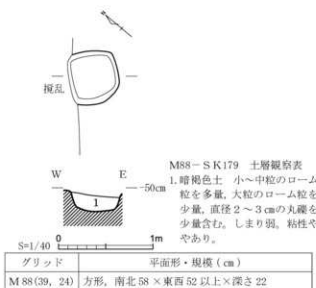
3 まとめ

本件は、集合住宅建設に先立ち、確認調査を実施したものである。建築範囲に南北方向に調査区を設定し、遺構の有無を確認したところ、東側で遺構を2基確認した。これらの遺構の性格を確認するため部分的に掘り下げたところ、覆土の状況から古代の遺構であると判断された。

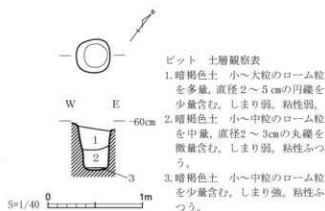
また、うち1基はピットであったが、このピットが建物を構成する柱穴である可能性もあったため、さらに東西方向にトレンチを入れ、遺構の広がりを確認した。しかし、これ以外に遺構は確認できず、それぞれ単体の遺構であることが判明したため、本調査の必要はないと判断した。



第1870.T-3図 土層模式図



第1870.T-4図 SK179平面・断面図



第1870.T-5図 ピット平面・断面図



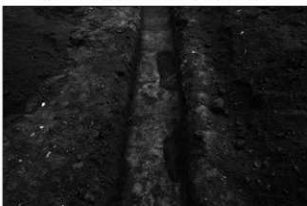
第 1870. T-6 図
T 3 全景 (南)



第 1870. T-7 図 SK 179 半截状況 (東)



第 1870. T-8 図 SK 179 完掘状況 (北東)



第 1870. T-9 図 T 2 全景 (北)



第 1870. T-10 図 T 1 全景 (北)



第 1870. T-11 図 T 5 全景 (東)



第 1870. T-12 図 作業風景